

平成28年
第9回9月定例教育委員会議事録

平成28年9月27日

大野城市教育委員会

次 第

1 招集日時

- 招集日 平成 28 年 9 月 27 日
- 開会時間 午前 9 時 00 分
- 閉会時間 午前 10 時 05 分

2 招集の場所 大野城市役所 本館 4 階 委員会室 3

3 会議次第

(1) 議事録署名委員

- 第 8 回議事録の署名委員 大石 薫 委員
- 今回議事録の署名委員 高木 和敏 委員

(2) 議事 なし

(3) 教育長報告

- ①福岡教育事務所管内市町教育委員会教育長会（9 月）について

(4) 報告

- ①平成 29 年度大野城市奨学資金奨学生の選考結果について
- ②平成 28 年度学力調査結果報告書について

(5) その他

- ①教育長の業務報告（8～9 月分）
- ②教育委員会の主な行事・業務の予定（平成 28 年 10 月分）
- ③平成 28 年度小学校運動会（秋季）訪問計画について
- ④ 2 学期学校訪問等訪問者について
- ⑤大野城市人権政策審議会委員の推薦について
- ⑥ 9 月定例議会 一般質問の概要について

4 出席した委員等 吉富 修（教育長）

角 敬之 大石 薫 安部 一枝
梶原 千春 高木 和敏

5 欠席した委員

6	出席した職員	教 育 部 長	平田 哲也
		教 育 政 策 課 長	船越 康二
		教 育 振 興 課 長	森永 希代美
		教 育 指 導 室 長	黒澤 真二
		ス ポ ー ツ 課 長	船越 善英
		ふるさと文化財課長	石木 秀啓
		教 育 政 策 課 係 長	山本 耕督

7	会議の書記	教育政策課教育政策担当	渡邊 洋介
---	-------	-------------	-------

午前 9 時 00 分 開会

○吉富教育長

それでは、出席いただくべき委員様がそろわれましたので、早速ですが、ただいまより平成28年 9 月定例教育委員会を開会させていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

〔議事録承認〕

○吉富教育長

議事録の承認に入ります。前回の 8 月定例会にて大石委員さんをお願いしておりましたので、署名をお願いいたします。

○吉富教育長

ありがとうございます。

今回の議事録の署名につきましては、次回の委員会において、高木委員さんに署名をお願いしたいと思っています。

〔議 事〕

○吉富教育長

早速ですが、議事に入ります。

今月の教育委員会におきましては、議案として提出されているものはございません。

〔教育長報告〕

○吉富教育長

早速、4 番の教育長報告に入らせていただきます。

お手元に資料 1 と資料 2 という中ほどに部外秘と刻印がされているものをお出しくださいませんか。それと資料 3、エフェクティブ・スクール訪問という一番上に資料がなっているものでございます。

これは今回、福岡教育事務所管内、市町村教育委員会教育長会の中でそれぞれの委員会において施行し、説明するものとしてお預かりしてきているものでございます。

「部外秘」とありますのは、まだ県が正式に出しておりませんので、委員さん方のところでおとめいただくように、口外されませんようお願いしておきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

大変分厚い資料になりますが、後ほど黒澤室長のほうからも本市に係る学力調査の結果については説明する機会がありますので、概略だけ述べさせていただきたいと思えます。

資料3のほうに目をお移してください。これは学力・学習状況調査の結果を受けて県が基本的に進めていく学力向上の方策でございます。「エフェクティブ・スクール訪問」を始めるといふこと。管内で効果的に学力を向上させている学校の取り組みを、管内全体で方策として共有するための事業を展開しますといふことでございます。

次の資料4は、小・中学校学力向上に向けた授業改善研修会でございます。これは、福岡県教育センターにおいて授業改善研修会として授業を展開し、こんな授業を行ってくださいと、ひな形、模範を掲示するものでございます。

資料の5になりますが、学力向上支援訪問といふことで、市町村の教育委員会から本市、本町の学校に来て、学力向上の取り組みの改善についてご指導いただきたいという要請をして訪問していただくものでございます。県のほうはこのような方策を立てて、来年度に向けて学力向上をしっかりと計画的に進めていく計画を立てているところでございます。

以上が、9月の管内教育長会において説明をするように指示されたものでございます。お尋ねがありましたら、どうぞよろしくお願いいたします。

またゆっくり見ていただいて、次回の教育委員会でもお尋ねがありましたら、また、途中でお尋ねがありましたら、県のほうにもお尋ねしたいと思えますので、お寄せください。

委員様方よろしいでしょうか。

[「なし」の声あり]

○吉富教育長

では、進めさせていただきます。4番の教育長報告は終わらせていただきます。

[報 告]

○吉富教育長

(1) 平成29年度大野城市奨学資金奨学生の選考結果について、教育政策課長、船

越課長説明をお願いします。

○船越教育政策課長

おはようございます。

それでは、平成29年度大野城市奨学資金奨学生の選考結果についてご報告をいたします。

選考委員会を8月29日に開催いたしております。選考委員は、安部委員、梶原委員を含め、こちらに記載している10名の方をお願いいたしております。

選考基準は、学業成績、収入基準、それから作文。この作文につきましては、10名の選考委員さんに事前に配付いたしまして、採点をしていただいたものを点数化いたしております。

選考結果といたしましては、高校の奨学生といたしましては15名の申し込みがありました。そのうち8名を内定者として選考いたしました。大学生につきましては2名の申し込みがございまして、1名を内定者といたしております。

内定者の内訳は、この表の結果のとおりでございます。

募集人員は合計で7名といたしておりましたが、ここ数年辞退者が複数出ておりまして、トータルの受給者が少し減っている状況もございましたので、ここ四、五年間の最大の幅でできる限り支援をいたしたいところもございましたので、ここ数年の最大の幅と同数程度まで採ることにいたしました。特に高校生につきましては、選考順位でいきますと6、7、8が特に点数が近い状況もございましたので、8名までを選考といたしております。

以上でございます。

○吉富教育長

説明が終わりました。何かお尋ねございましょうか。

お願いいたします、角委員。

○角委員

貸与型だったですか、給付型だったですか。

○吉富教育長

給付。いいですか、間違いないですね。

○船越教育政策課長

高校生につきましては9,500円、大学生につきましては2万2,000円を支給、返還不要でございます。

○吉富教育長

角委員、それでいいですか。

○角委員

はい。

○吉富教育長

ほかにごございますか。高木委員お願いいたします。

○高木委員

辞退者が数名いた、その辞退の理由等はわかりますか。

○船越教育政策課長

まず、ここ数年の大学生の辞退者につきましては、志望大学に合格できなかったところなんです。それから、高校生の辞退者につきましては、私立の高校に入学されて、そこでほぼ全て支払いが不要な特待生に選考されて、そういうもろもろの必要なお金が要らないということでした。それと併給はできないものですから、辞退ということになります。

○吉富教育長

高木委員よろしいですか。

○高木委員

はい。

○吉富教育長

ほかにご確認ございますか。

〔「なし」の声あり〕

○吉富教育長

いいですかね。そうしましたら、これについては終わらせていただきます。

次に進ませていただきます。

(2) 平成28年度学力調査結果報告書について、黒澤室長説明をお願いいたします。

○黒澤教育指導室長

こちらの資料になります。当日配付分です。ありますでしょうか。平成28年度学力調査結果報告書について説明いたします。

まずは4月19日に実施されました全国学力・学習状況調査についてです。資料の2ページを御覧ください。

小学校は6年生の国語科、算数科を、中学校は3年生の国語科、数学科を対象に行われました。小学校、中学校とも全ての教科区分で全国の平均正答率を上回っております。ただ、小学校におきましては、黒丸のところに書いておりますが、平均正答率を教科区分で比べると、国語も算数も先ほど教育長も述べましたようなB問題——活用問題よりもA問題——基礎基本の習得の問題のほうが低く、基礎的問題の定着を図る必要があることが見てとれます。

また、中学校におきましては、下の黒丸に書いておりますが、平均正答率を教科区分で比べますと、数学よりも国語の正答率が低く、課題が見られる傾向が見えてございます。

3ページから10ページにかけては、教科に関する調査の結果を載せております。白丸につきましては、成果について、黒丸につきましては、課題について挙げさせていただいております。また、大野城市として特に課題が見られる問題と今後の指導のあり方について、それぞれの教科ごとに示しております。

11ページから28ページにかけては、児童・生徒質問紙に関する分析を載せております。資料の11ページを御覧ください。

上のグラフは質問に対する答えで、白丸は成果、黒丸は課題について載せさせていただいております。下のグラフは質問紙と正答率の相関をグラフにしたものです。

29ページから32ページにかけましては、今までの経年比較を載せております。

33ページから37ページにかけては、6月21日に実施されました福岡県学力実態調査について載せさせていただいております。資料の33ページを御覧ください。

小学校は5年生の国語科、算数科を、中学校は2年生の国語科、数学科を対象に行われました。小学校、中学校とも全ての教科区分で全国の平均正答率を上回っております。また、34ページからは各教科の傾向を載せております。

これらの調査結果をまとめますと、次のようなことがわかります。一番最後、38ペ

ージを御覧ください。

日常の授業研究をとおした実践的指導力の質的向上として、アクティブ・ラーニングの視点を活かした授業改善、チームとしての授業改善が挙げられます。また、学校、家庭、地域が連携、協同する取り組みとしては、家庭での予習・復習、学校での基礎的、基本的な問題の徹底、家庭学習等といったサイクルスタディーを確立すること。また、福岡県が推奨しております、鍛えて、褒めて、子どもの可能性を伸ばす「鍛ほめ福岡メソッド」をさらに推進していくことなどが挙げられます。

児童・生徒質問紙の調査結果からは、小・中学校とも国語や算数、数学が好きと答えた児童・生徒の割合が全国よりも低い傾向がございました。教科等の貢献度、好きや嫌いの度合いと学力の相関は見られますので、児童・生徒に興味関心を持たせ、自ら課題を追求していく問題解決学習を推進していくことが必要になります。

また、特に小・中学校とも読書嫌い、読書離れの傾向があるため、学校や家庭で連携して取り組む必要があると考えています。

最後に、調査結果の公表につきましては、大野城市教育委員会としましては、市全体の状況を、学校が自校の状況を説明するという立場で進めています。学校の状況説明におきましては、当該校の保護者や地域住民に伝わるように公表すべきだと考えております。

また、9月29日、今週の木曜日の17時に報道機関に全国学力・学習状況調査の公表が行われる予定です。次の30日の朝、新聞の朝刊等に結果が載る予定になっております。

また、この平成28年度学力調査結果報告書につきましては市長や議会等にも報告をした後、市のホームページにも掲載する予定でございます。

説明は以上でございます。

○吉富教育長

何かご確認がございましたらお願いいたします。

角委員お願いします。

○角委員

最後にありました数学、算数が嫌いというのが大野城の場合は全国的よりも低い、興味を持たせる必要があるという発言がありました。それと、読書嫌い、読書離れをなくすために連携して、家庭、学校、連携してということでした。

現実問題として、数学に興味を持たせるにはどういう方法があるのか、読書離れを

解消させるためにどういうものかいいとお考えなのかを少し教えていただきたいと思っています。

○吉富教育長

お願いいたします。

○黒澤教育指導室長

38ページを御覧ください。

38ページの一番上のところに書いております「日常の授業研究を通じた実践的指導力の質的向上」ということで、「アクティブ・ラーニング」という言葉が書いてあります。アクティブ・ラーニングの視点を活かした授業改善をしてくださいと今、盛んに県教委等も言っています。

これには三つの視点がございます。一つは、今、角委員からご指摘いただきました主体的な学び。つまり、先生が一方的に問題を与えてやり方を説明するような解き方ではなくて、児童・生徒に興味関心を持たせることが大事になってきます。そのためには、主体的な学びのところに書いております、まず、子どもたちに見通しを持たせることが非常に重要になってきます。

また、その見通しを持たせた後に、自力解決あるいはグループでの交流活動等がございますが、その下に対話的な学びという二つ目の視点がございます。一人では気づかなかつたものも、友達どおしで交流することで新しい視点とか、あるいはさらに自分の考えが強化される、「よかった」というものが明らかになっていく。共同的な学びを通して、自分の学びを確かにしていく問題解決学習を今、進めているところです。

そして最後には、学習したことを振り返るという活動を必ず位置づけて、それを自分の言葉で表現させる。先生がまとめたものをそのまま書き写すのではなくて、子ども自身が、その問題について考えたことを自分の言葉でまとめていくサイクルを通すことで、最終的には深い学びというアクティブ・ラーニングの最後の学びにつながっていくと国語科、算数科、数学科等は考えています。

以上です。

○吉富教育長

よろしいですか。

○角委員

「アクティブ・ラーニング」というのが今やたらと出てきているんですけども、本当に個人差が大きすぎて、まだまだ先生たちの中での研修会みたいなのがもっと必要んじゃないかなと思うんです。今、言われたのは確かに非常にいい回答だと思います。ところが、黒澤室長と同じような認識、同じようなやり方にはまだまだなっていないので、まずその辺の先生たちの今後のアクティブ・ラーニングのやり方、捉え方、実践の仕方をもっともっと何らかの形で研修をしながら進めていただきたいと思います。

○吉富教育長

ご指摘ありがとうございます。
どうぞ。

○黒澤教育指導室長

ありがとうございます。今、アクティブ・ラーニングにつきましても、大野城市でも推進をしようということで、先日、学力向上実行委員会という、研究主任、それから学力向上コーディネーター主幹教諭の集まりの会がございました。

その中で、今年初めてですが、アクティブ・ラーニングを全国的に非常に進めている九州大学の大学院の先生を講師にお招きをしまして、実際に大野東中学校の社会科の教員に授業をしていただいて、その授業をもとに、その後の協議会でアクティブ・ラーニングの進め方について、「今日の授業はこういった視点で協議をしていきましょう」という研修会も今年度初めて取り組んだところでございます。今、角委員からいただいた中身について、またさらに今後継続していきたいと思っております。

○角委員

よろしく申し上げます。

○吉富教育長

中学校の授業の中でも、定理とか法則といったものをむき出しにしないで、日常生活問題と絡み合わせながら問題を出して行って興味を引くというのが、少しずつですが着実に伸びているところもありますので、角委員のご指摘の方向で研修も組み立てたいと思います。ありがとうございます。

どうぞ、大石委員。

○大石委員

読書のほうですけれども、小学校はベルマークを集めてますよね。中学校はなかなかやっているところは少ないですよ。私の住んでいるところでは公民館でも集めているんですけれども。

何の話かと言いますと、ベルマークを集めることで、作家さんを呼ぶことができるんです。その作家さんと呼んでいろんな話とかコミュニケーションとかをすることができるので、そういうことを大野城市として少し推進してみてもどうかと思います。なかなか学校単位では難しいかもしれないんですけれども。年に一度ぐらいは多分、新聞に一面で入っているような気がするんです。新聞社によっても違うかもしれないんですけれども。

ものをつくり出す作家さんの話を直接聞くというのは、子どもたちにとってもすごく近いところからの影響といいますか、先生が言われるのと親が言うのとは全く違ったところからすごくいい影響を受けられると思いますので、そういうものをちょっと進めてみてはどうかと。

各学校に行きますと、まどかぴあのお勧めの本などのポスターが張ってあったりしますよね。ああいう形で同じように各学校に掲載して、「こんな作家さんの話を聞くことができます」のような掲示物をしていただいたりとか。そういうことをすると、遠いところでこういう人が本を書いているというのではなく、近くに来て話をしてくれるので、子どもたちもそこに入り込もうとしてくれるのではないかなと思いますので、一つ提案をさせていただきました。

○吉富教育長

何かの機会に意見として活かしてください。

○黒澤教育指導室長

はい、ありがとうございます。

○吉富教育長

ありがとうございました。どうぞ、角委員。

○角委員

読書嫌い、読書離れの部分なんですけれども、3歳ぐらいまでにそういう習慣をとるか、3歳ぐらいまでといたら家庭しかないんですよ。だから、1歳半健診だ

とか、3歳児健診みたいなきにこども部などに働きかけていただいて、お母さんやお父さんの家庭での寝る前の読み聞かせみたいなものをPRをしていただいて、学校に上がったときにも読書離れにならないような取り組みを、教育委員会と市庁局のこども部あたりと連携で働いていただければと思いますので、よろしくお願いします。

○吉富教育長

黒澤室長、稲住指導主事が進めているあの中に内容としては入っていませんか。
どうぞ。

○黒澤教育指導室長

来年度、就学前の学びの手引書というのを今現在、作成途中でございます。
保育園、幼稚園、それから小学校1年生、小学校のそれぞれの代表の方に集まっていたきまして、小学校に上がる接続のところで、前後の2カ月程度の学びを言葉という領域の中で一つ考えているところでございます。今、そういう手引書等をつくっていますので、その中にも少し今言われた読書については反映できるような形で、あと、意見として文章化していきたいと考えております。

○角委員

もっと下のね。

○吉富教育長

もっと下。

○角委員

学校に上がる前の分じゃなくて。

○吉富教育長

森永課長どうぞ。

○森永教育振興課長

教育委員会ではないのですけれども、今、私のところで所管しています子ども読書推進計画の中で、ブックスタートが子育て支援課で取り組まれております。

生後4カ月になった子どもさんにお手紙が行きまして、まどかぴあ、子ども情報セ

ンターとコミュニティセンターの各場所におきまして、子どもに読み聞かせをしながら本を紹介する、読み聞かせのよさを紹介する。そのときに4冊の中から気に入った2冊をプレゼントして持ち帰ってもらう。そのときお母さんに、今後もうこういうふうにしてくださいよと言うような事業、ブックスタートというのをしております。

4カ月のときに行けなかったら1歳3ヶ月までは行けますので、その間に都合のいいときに会場に行って、直にその技術を学びながらするブックスタート事業というのを行っております。

○吉富教育長

ありがとうございました。

○角委員

よろしくお願いします。

○吉富教育長

いいですか、ほかには。

[「なし」の声あり]

○吉富教育長

それでは、黒澤室長からの学力調査結果報告書についての説明は終わらせていただきます。

報告は以上でございます。

[その他]

- (1) 教育長の業務報告（8～9月分）
- (2) 教育委員会の主な行事・業務の予定（平成28年10月分）
- (3) 平成28年度小学校運動会（秋季）訪問計画について
- (4) 2学期学校訪問等訪問者について
- (5) 大野城市人権政策審議会委員の推薦について
- (6) 9月定例議会 一般質問の概要について

○吉富教育長

事務局は報告はこれ以上ございませんね。

○吉富教育長

先ほど教育部長のほうも少し触れていただきましたが、任期満了に伴い大石委員様のご退任なさいます。後任として松本様がお出でになるということをご紹介がありましたが、長きにわたりまして、特に言語環境を留意して学校の現場を見ていただきましたり、ありがたいアドバイスをいただいたりしてきました。一応、大石委員様におかれましては、教育委員会はこれが最後になるだろうと思いますので、ここでひとつご挨拶を頂戴したいと思います。そして、事務局に檄を飛ばして行ってくださればと思います。どうぞお願いいたします。それをもって閉会にしたいと思います。

○大石委員

それでは改めまして、皆様お疲れさまでございます。

前任の方の在任期を引き継ぎまして約6年間、教育委員をさせていただきました。本当にここに来ないとわからないことをたくさん勉強させていただいて、自分としては、自分の視点を大事にしておれない意見を言わせていただこうと心掛けてやってまいりました。なかなか私のキャパシティーでは難しいことばかりで、何かお役に立てたかどうかはわかりませんが、本当に6年間ありがとうございました。

○吉富教育長・出席者全員

(拍手)

ありがとうございました。

○吉富教育長

それでは、一応予定しておりました内容について終わらせていただきたいと思います。

以上をもちまして9月の定例教育委員会を終わらせていただきます。ありがとうございました。

午前10時05分 閉会